



伊達騒動

加羅先代萩  
(めいぼくせんだいはぎ)

今号の最後に戸山恵子さんの歴史巷談に、伊達と加賀両家のお家騒動のことが書いてあります。このうち加賀騒動は別にして、伊達騒動について少し話してみたいと思います。

ご存じと思いますが、伊達騒動の方は、今でも舞台でよく上演される歌舞伎で「伽羅先代萩」というのがあります。この芝居の本题は、「伊達競阿国戯場(だてくらべおくにかぶき)」というのですが、こちらの方には、遊女高尾大夫や累の話が入っています。でも最近は主に前者がよく上演されます。

「先代萩」は、花水橋・竹の間・御殿・床下・対決・刃場の六場からなっています。面白いのは、二場・三場は女ばかり、あとは男ばかりの登場という構成です。

現在では、主役の政岡の役は中村歌右衛門さんの当り役です。私は戦前、東京の歌舞伎座でこのお芝居を見ましたが、政岡より、先代の市村羽左衛門さんの演じた細川勝元の方が、忘れられないほど記憶にはっきりと残っています。この方は、舞台に出てきただけでそこが明

るくなるというほどの花のある役者さんでした。

戦後は、今から十年ほど前、東京の明治座で市川猿之助さんの「伊達の十役」を見ました。テレビでご覧になった方もあると思いますが、どちらかというと、この方は後者に近いものです。外題が示すように、猿之助さん十八番の早がわりが劇を一層面白くしています。

以上、ちょっと一言、余白を利用していただいで伊達騒動のお粗末でした。

(後藤 知久)

